



深田久弥

山の文化館だより

令和4年
冬号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺番場町十八
TEL 〇七六(一)七二一三三三一
FAX 〇七六(一)七二一三一八

秋の久弥祭



深田久弥没後五十年を迎えた第二五回久弥祭は去る十月三十一日(日)、例年のように富士写ヶ岳を前にした九谷ダム広場で行われました。

秋の好天に恵まれ、遠く葦崎から内藤市長をお迎えし、当加賀市からは宮元市長が参列されました。これより前に令和三年四月十七日葦崎での深田祭の折、共同宣言が締結さ



れ深田久弥の誕生の地と終焉の地が絆で結ばれました。山を愛する深田久弥の功績が将来において広く継承されることが望まれます。また今回より深田久弥の残した言葉で、江沼神社の文学碑の中の一節でもある「山の茜を・・・」から茜色の久弥祭の幕も設置され彩を添えました。
コロナ感染予防もあって春から秋に延期された久弥祭でしたが、頂上近くには美しい紅葉も見られ没後五十年を記念すべき良い久弥祭でした。

久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その16

書込みのある地形図一覧表の中に「日光と連結、書込み多数」とあるものがあつた。地勢図「日光」の十二番「男体山」である。結構古びているので恐る恐る広げてみた。擦り切れているところがあつたりするが、確かに多くの書込みがあつた。

男体山から大真名子山、小真名子山、女峰山、赤薙山まで二千メートルの等高線から上三百メートルほどが薄赤く着色されている。そして、太郎山



参考文献

「日光と那須の山々」『山の愉しみ』
「男体山」『をちこちの山』

も。女峰山から流れる雲竜溪谷には判別できるだけで十四個もの滝の記号が書かれており、下流の沢の名前も克明に書かれている。赤鉛筆のラインは、中禅寺湖畔から二本松、御沢を通り志津小屋までと、志津小屋から大真名子、小真名子を越え富士見峠まで、そして富士見峠から日光への下山ルートに引かれている。白根山周辺では北は温泉ヶ岳から錫ヶ岳あたりまで二千メートルの等高線から上が薄赤く着色されて囲まれている。こちらには赤鉛筆のラインはない。

男体山周辺の赤鉛筆のラインは、昭和十年十月のものであろう。深田久弥はこの年、友人と二人で御沢から志津小屋に入り一泊し、翌日大真名子山、小真名子山を越えて富士見峠に至つた。そして女峰山を目指したが雨のため峠から日光へ下っている。志津小屋へは二度泊つたと書いているが、二度目の時の、二荒山神社中宮祠から登つた男体山登山のルートのラインはない。この登山は昭和十七年八月五日から六日のもので、志津小屋に一泊後、前回同様のルートで女峰山を目指した。

しかし、この時も雨のため女峰山には登れず引き返し、志津小屋から日光に向けて下山している。白根山には、昭和三十六年八月に家族と登っているがこのラインもない。

喫茶「穂高」再訪

東京御茶ノ水駅聖橋口近くに「穂高」という喫茶店がある。数年前のことになるが、日本山岳会会員で画家の中村好至恵さんの絵が、店内に展示してあるとの話を聞いて訪れたことがある。店内を見回しても中村さんの絵はなかった。展示の期間が過ぎていたのかもしれない。

たまたま空いている席に座ったのだが、テーブルの横の壁を見ると、穂高岳を描いた油絵がひっそりと掛かっていた。署名に目をやると、なんと Y.yamakawa とある。そして、なんとなく見覚えのある書体でもある。こんな所で山川勇一郎さんの絵に出会えるなんて嬉しくなった。出がけにお店の方に確かめると、間違いなく山川さんの作品であった。その上、喫茶店の名前の「穂高」は、山川さんのこの絵にちなんで付けられたとの事であった。

このお店のシンボルの作品だったのである。先日、山岳会の会合で東京に向かうことになり、空き時間に訪ねたい所が二つあった。一つは、深田久弥の著作の装幀をしていた谷口喜作の菓子舗「うさぎや」であり、もう一つは喫茶「穂高」であった。店内に入ると、あいにく穂高の絵の横の席は空いていなかった。絵に目をやりつつ他の席に着いた。コーヒを飲んで帰るころには、その席が空いていたので近くで見ることが出来た。山川さん

の絵に再会できたことを喜びながら店を後にした。

山の文化館展示室には、久弥さんと遠征したジュガール・ヒマールを描いた絵が掛けられている。また最近、吉野満彦宛で山川勇一郎手描きの絵葉書を手した。これは神奈川近代文学館を経て頂いたもので、思わぬ出会いがまた一つ増えた。



喫茶 穂高 (御茶ノ水駅聖橋口)

1冊1冊

『遭難者』と題する本がある。二冊組で、『不帰に消える 笹村幸彦追悼集』と『不帰ノ嶮、再び 笹村幸彦追悼集 別冊』からなっている。本の帯には「北アルプスで死んだ青年の追悼集に秘められた謎、謎、謎・・・」とある。史資料文献室にあるので一度手に取ってご覧になってはいかがだろうか。

間こう会予定

新型コロナウイルスの流行の中で、間こう会はリモートで二会場形式にして実施しています。
(聴講無料)

午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房他

■一月二十三日(日)

演題…文殊山の歴史と自然

講師…徳毛 祐彦氏(楞嚴寺住職)

■二月二十日(日)

演題…「日本百名山」

講師…久弥が讃えた山容について
大庭保夫氏(日本山岳会会員)

■三月二十日(日)

演題…言葉の山へー高田宏先生の思い出

講師…多賀谷 真吾氏(写真家・大学講師)

読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。
(参加無料)

一月二十一日(金)

『日本百名山』より「苗場山」

二月十八日(金)

『日本百名山』より「妙高山」

三月十八日(金)

『日本百名山』より「火打山」

●場所 深田久弥山の文化館

●時間 午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧ください

編集後記

昨年はWでコロナの中で工夫を凝らし、久弥祭間こう会、ふれあいコンクールなどを開催することが出来ました。今年も堅実に進んでいきたいものです。
(Y・K)

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>